

「大池の百八灯」^{ひやくはつと}

- 指 定 千曲市指定無形民俗文化財 平成 27 年 4 月 1 日
- 所 在 地 千曲市大字八幡字大池地区
- 伝 承 者 大池区
- 公 開 毎年 8 月 16 日（姨捨サービスエリア下り線 上部の山際）

大池地区（大池新田村）は、^{てんしょう}天正 14 年（1586）（諸説あり）^{とくがわいえやす}徳川家康の養女・^{こまつひめ}小松姫が上田城主^{さなだのぶゆき}真田信之に嫁いだとき、化粧料として小松姫に与えられた土地だと伝わっています。小松姫は、^{げんな}元和 6 年、家康の御機嫌伺いに^{とくがわいえやす}出府した帰路、武蔵国鴻巣（埼玉県鴻巣）で急逝しました。元和 8 年（1622）真田信之の松代移封にともなって、大池新田村は大英寺領となり、その翌年頃から小松姫の遺徳を偲んで、月遅れの 8 月 16 日夕暮れ時、一本松峠につながる古道（大道）に 108（煩惱の数）の灯火を点して小松姫の供養をします。

現在、大池区育成会を中心に行事が進められており、在住の子供たちが各家をまわって藁を集め、集めた藁で百八の塔をつくり、最後の一つは大きな塔をつくります。

大道沿いに約 2m 間隔で塔を並べ、上部から火を点け最後に大きな塔に点火して百八つの灯火で供養します。

